

公共図書館と連携 「朝読便」「テーマ便」「キーぼー便」の配送システム

愛知県 安城市立三河安城小学校（安城市立の全小中学校で実施）

基本データ

所在地 安城市箕輪町昭和47番地
児童生徒数 467人
教職員数 40人
蔵書数 15,731冊
年間貸出冊数 15,449冊

※三河安城小学校の基本データを掲載しているが市内全域で同一の取組を実施

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】公共図書館、地域との連携体制、ネットワークの構築

【活動のねらい】

- 「朝読便」は、いつでも教室にたくさんの本のある読書環境を作り、児童生徒の読書意欲の喚起を図った。
- 「テーマ便」は、学校で調べ学習をする際、教員や学校司書が公立図書館に来館することなく、FAX でテーマを伝えるだけで関連する本がそろるようにし、授業ですぐに資料本を活用できるようにした。
- 「キーぼー便」は、公立図書館から学校に児童生徒の読みたい本がいつでも届くことで、児童生徒がより読書に親しめるようにした。

取組・活動の概要

- 2017年度（平成29年度）から、市内全小中学校の全学年、学級を対象に、朝の読書用の「朝読便」、調べ学習のテーマに応じた「テーマ便」、個別の図書を予約し、貸りる「キーぼー便」の配送を始めた。
- 「朝読便」は、公立図書館の本がいつでも教室にあるように、市内全小中学校の各学級に本を届けた。
- 「テーマ便」は、各学級の調べ学習に応じた資料となる本を、公立図書館からまとめて取り寄せられるようにした。
- 「キーぼー便」は、公立図書館から学校に、児童生徒の読みたいと思う本が届くようにした。



朝読便のテーマ便の選定・発送（公立図書館）



朝読便の本が来た教室



テーマ便（ユニバーサルデザイン）の本が置いてある教室

取組・活動の工夫や特徴

- 「朝読便」では、公立図書館にある本を、公立図書館職員が児童生徒の学年等にあわせて選書し、図書20冊が入ったコンテナ（小学校は各学年3コンテナ、中学校は9コンテナ、特別支援学級は1コンテナ）を貸し出し、市内全ての小中学校の各学級に20冊本が行き届くよう

にした。また、3週間で交換できるようなシステムを確立した。

- 「テーマ便」は、児童生徒が調べ学習を行うとき、テーマをFAXで送ることで、テーマに合った本を公立図書館が選書し、1クラス40冊まで配送され、授業に活用することができるようなシステムを確立した。
- 「キーぼー便」は、公共図書館が近くにない児童生徒でも、読みたい本がすぐに届けられるシステムを確立した。
- 始めに、学校と市の図書館との連携を図るために、図書館教育アドバイザー（社会教育指導員）を教育委員会が配置したことで、連携が円滑に行われた。
- 配送に手間がかかるため、本の動きを把握するために公立図書館と学校とが連携し、配送システムを確立することがポイントとなる。

取組・活動の成果や今後の展望

- 「朝読便」によって、市内すべての生徒児童がいつでも公立図書館の本を教室で手にすることができた。
- 本の貸し出し数が30万8千冊（H30）と過去最高（H28は27万5千冊）となり読書に親しむ姿が見られた。
- 「テーマ便」の貸し出し利用が373件と増加（H28は81件）し、調べ学習等の授業が充実した。同時に、調べ学習にかかわる学校司書による授業の支援が増加した。
- 本が身近になったことで、学校図書館だけでなく、休日に公立図書館へ足を運ぶ児童生徒数が増加している。生涯にわたって本に親しむことを見通し、公立図書館とのさらなる連携の強化を図りたい。

